

Message From Outside Director

社外取締役メッセージ

企業価値向上に向け、 ガバナンス・執行力の一層の強化へ

2022年6月に新たに就任された市川社外取締役に、社外取締役から見た住友化学の姿と今後への期待などについて、お話を伺いました。



市川 晃

社外取締役

1978年、住友林業株式会社に入社。海外部次長としてアムステルダムに駐在し、その後シアトル出張所所長などを経て、2002年国際事業部長、2007年執行役員経営企画部長、2008年取締役常務執行役員を歴任後、2010年4月に代表取締役社長に就任し、2020年4月より代表取締役会長を務める。2021年6月コニカミノルタ株式会社社外取締役、2022年6月住友化学株式会社社外取締役に就任。

一つ一つの課題に向き合う 企業文化と体制がある

社外取締役として、私自身のこれまでの経歴とは異なる化学業界の経営を監督させていただくこととなり、改めて日本の製造業を支える基幹産業としての化学産業のすそ野の広さを認識し、驚いています。

住友化学は、高い技術力に基づき機能性材料など付加価値の高い商品づくりを行っています。加えて、健康・農業関連事業、医薬品事業など、古くからライフサイエンス分野にも注力し、それぞれの事業分野で得意とする専門領域をベースに事業を展開しており、化学業界の中でも特色ある事業ポートフォリオを有していると感じています。

ただ、温暖化が進む世界の中で、地球資源をどう未来につなげていくか——これは、全産業にとっての重要な課題ですが、石油化学事業にとっては特に大きな課題と言えるでしょう。さらに、化学産業はすそ野が広いがゆえに、製品が相当に細分化されていて、かつ大規模な製造設備を有するという特殊性があるため、製品の生産代謝を図っていくことが容易ではなく、変化に対応しにくいという側面もあると思います。そうした中で、効率性とともにつ加価値を高めて収益性を最大化し、持続的な成長を実現していけるかが課題だと考えています。

住友化学は、このような一つ一つの課題に正面から向き合って議論を重ね、解決に向けた取り組みを進めています。何事に対しても、真摯に丁寧に向き合う企業文化があるのです。例えば、住友化学は「レスポンシブル・ケア」の考え方のもと、化学製品のライフサイクル全体において、安全・健康・環境を確保し、品質向上を図ることを目指しています。そして、その実現の司令塔として、各部門横断的な横串組織として「レスポンシブル・ケア部」を設置しています。概念だけでなく、それを実行するためのマネジメント体制があることが素晴らしいと感じています。

ガバナンスの議論についても同様で、コンプライアンスに限らず、人権問題、ダイバーシティ&インクルージョン、環境問題など多岐にわたる課題に対して、細かく丁寧に取り組んでいます。しっかりとしたガバナンスの仕組みはすでにありますので、これからはその仕組みをグループ会社や取引先等に広く展開しながらバージョンアップしていくことが重要になってくると思います。

広義のGXの推進 住友化学らしさに期待

住友化学は、企業理念である「自利利他 公私一如」に基づき、社会価値の創出と経済価値の創出の両軸で、企業価値の向上を目指しています。そのための取り組みの1つとして、GXの観点からポートフォリオの高度化を図っています。特に、住友化学は、GXを生態系保全だけではなく、人の健康を含む社会システムのあり方として捉えており、その観点から各事業・部門が何をすべきかを考えていくことで、新しいイノベーションを創出しようとしています。これは非常に住友化学らしい考え方・取り組みだと思います。

地球の健全性を維持しながら社会を持続させていくためには、限りある資源をいかに無駄にしないかを考える必要があります。例えば、化学製品の方がサステナブルな場合には化学製品を使用し、木材の方がサステナブルな場合は木材を使うなど、業界の枠に捉われず、素材や製品の適材適所を考えながら、地球規模で資源の循環に取り組んでいく事が大切です。

現在、住友化学が優先的に取り組んでいる事業ポートフォリオの高度化に向けては、人材や技術などのリソースと時間軸を見ながら、選択と集中で優先順位を付けて取り組んでいくことが求められます。その際、ポートフォリオを変えること自体が目的ではなく、その先の企業価値の向上が目的であることを忘れてはならないと思います。加えて、事業ポートフォリオがその時点のリソースにマッチしているかを、常に点検することも肝要です。

また、脱炭素への関心の高まりで石油化学事業への風当たりが強くなっていますが、石油化学は社会と日本の製造業にとって不可欠な産業です。住友化学はまさにそれを明言し、「エッセンシャルケミカルズ部門」として石油化学事業に取り組み、先頭に立って議論し、行動しています。もっと多くのステークホルダーに、この考え方をサポートしていただきたいです。メディア・消費者を含めて石油化学事業に対する理解を深めていかねばなりません。そして、エッセンシャルな産業として永く未来につないでいくために社会としてどうするべきかを考える流れを作っていきたいと考えています。

住友化学が、化学業界の中でも他社とは異なる輝きを放ちながら、発展していくことを期待しています。そのためには、やはり経営の執行力が重要です。社外取締役として業界の枠にとらわれない多様な視点で課題に向き合う事で、住友化学の発展に貢献していきたいと思っています。